

吉野諒三

データ科学研究系・教授、及び調査科学研究センター・センター長

1. 「日本人の国民性」調査 ---歴史と実践と理論の三位一体---

統計数理研究所では、1953年以来、半世紀にわたり、成人の男女を対象に「日本人の国民性」に関する調査を続けている。この調査の先駆として、戦後(1948年)に米総司令部GHQの指示で、統計数理研究所、国立教育研修所、あるいは後の国立国語研究所のスタッフとなる研究者たちを含め、日本全国の社会学、心理学、言語学、その他の関連分野の研究者が集まり遂行された「日本人の読み書き能力調査」がある。これは現実の課題解決のために各分野の人々が集合した、学際的事業であった。

この成果を受け、開発された実践的標本抽出法を活用し、昭和28年には「日本人の国民性」調査が開始される。これは、さらに米国のGSSなど、諸外国での同様の時系的調査開始の刺激となっていく。戦時中にできた研究所が次々と廃止されていく中で、統計数理研究所(開所1944年)は、戦後民主主義の科学的基盤を支える使命を担い、新たに出発したのであった。

「日本人の国民性」調査は、今日では、内閣府政府広報室の「社会意識に関する世論調査」、NHKの「生活時間調査」と共に日本の三大標本調査として有名になった。さらに、米国のGeneral Social Surveyや「世界価値観調査、ヨーロッパのEurobarometerなど、世界の各国の大規模な調査や国際調査を開始させる刺激となったと言われている。

2. 「意識の国際比較調査」

我々の研究は、1971年頃から、国民性をより深く考察する目的で日本以外に住む日本人・日系人を初め、他の国の人々との比較調査へと拡張されてきた。

初めからいきなり全く異なる国々を比較しても、我々のような意識調査では計量的に意味のある比較は出来ない。言語や民族の源など、何らかの重要な共通点がある国々を比較し、似ている点、異なる点を判明させ、その程度を測ることによって、初めて統計的「比較」の意味がある。この比較の環を徐々に繋ぐことによって、比較の連鎖を拡張し、やがてはグローバルな比較も可能になろう。我々は、この方針の下で、国際比較を進め、「連鎖的調査分析(Cultural Linkage Analysis, CLA)」と呼ぶ方法論を展開し、さらに「文化多様体解析Cultural Manifold Analysis, CULMAN」を発展させ、「データの科学」と称する統計哲学を計量的文明論(林, 2000; 吉野, 2001, 吉野他, 2010)のために試行錯誤しているところである。

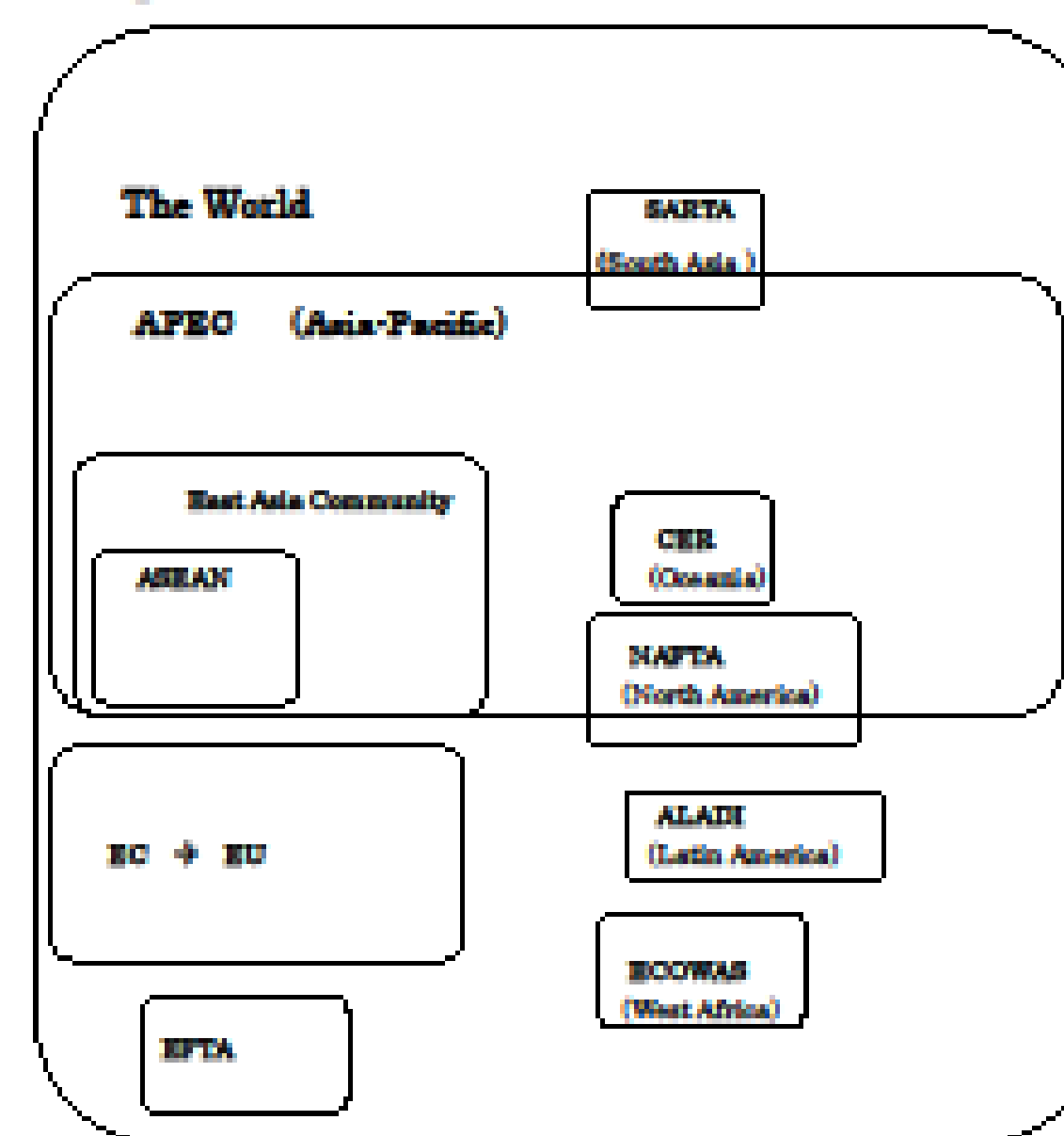
Table 1. Partial List of Past Surveys by ISM.

1953 - present Japanese National Character Survey (every five years)	
Japanese Americans in Hawaii	
1978	Honolulu Residents, Americans in the Mainland
1983	Honolulu Residents
1988	Honolulu Residents
1987-1993 Seven Country Survey	
1987	Britain, Germany & France
1988	Americans in the mainland of U.S.A, the Japanese in Japan
1992	Italy
1993	The Netherlands
Recent Overseas Japanese Survey	
1991	Japanese Brazilians in Brazil
1998	Japanese ancestry Americans in the U.S. West Coast.
1999	Honolulu Residents in Hawaii
2002-2005 East Asia Values Survey	
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore)	
2004-2009 Asia-Pacific Values Survey	
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)	
2010-present Asia-Pacific Values Survey	
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Macao, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India Philippines, Thailand, Vietnam)	

参考文献

- 吉野諒三編 「東アジア国民性比較 データの科学」. 勉誠出版. (2007).
 吉野諒三・千野直仁・山岸候彦. 「数理心理学」. 培風館. (2007)
 吉野諒三・林文・山岡和枝. 「国際比較データの解析」. 朝倉書店. (2010).
 Yoshino, R. (2009) Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. Behaviormetrika, 36,2, pp.115-147.
 Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009) Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. Behaviormetrika, 36,2, pp.89-113.
 Fujita, T., & Yoshino, R. (2009) Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. Behaviormetrika, Vol.36, No.2, pp.149-166.

Fig. 6 A Manifold of Local Communities



Some pairs of these local communities may overlap each other and the total set may make a hierarchy as a global manifold. In order to realize a steady peaceful and prosperous development, we may need a set of "soft" regulations to connect pairs of communities, rather than a single restrictive global standard.